

## 開催要項

### 開催にあたって

我が国の経済は、世界的な保護貿易主義の高まりによる影響が懸念されるものの、企業部門の好調が続き、緩やかに拡大していくと見込まれます。ただし、リスク要因として、人手不足の深刻化や為替相場の動向、経済政策の停滞が景気の下押し圧力となる可能性について注意を払う必要もあります。特に、人材不足については年々深刻化していくことが予想され、製造業の現場に多大な影響を及ぼすことが懸念されます。

このような中、人材不足が進む生産現場への対応として、生産性向上のために最新デジタルツール（IoT、AI、ロボットなど）の導入、重要な経営資源である人材育成による技術伝承や付加価値の高い仕事へのシフト、人材活用制度の見直しとしての働き方改革への取り組みが始まっております。

今年度は、現場力の維持と強化を目指すことを中心テーマとした全8回の講座を開催し、参加される皆様の生産技術の向上と経営資源の強化に役立てることを目的としております。

### 開催方法

表示しました全8講座に年間会員登録をいただき、各講座の詳細を逐次ご案内します。講座毎のお申し込みはできませんのでご了承ください。

各講座の出欠はご随意です。

### 申し込み・問い合わせ先

◎長野県中小企業団体中央会 <http://www.alps.or.jp>

・連携支援部	TEL(026)228-1171	FAX(026)228-1184
・東信事務所	TEL(0268)24-1788	FAX(0268)25-3258
・中信事務所	TEL(0263)32-0477	FAX(0263)32-7299
・南信事務所	TEL(0266)78-4030	FAX(0266)58-6670
飯田分室	TEL(0265)24-7088	FAX(0265)24-5734

### 申し込み締め切り

平成 30 年 8 月 30 日（木）



## 「…現場にて経営・技術の改善…」

## 基調テーマのもと経営、技術、改善について 全8講座の研修開催

**主催** 長野県中小企業団体中央会  
長野県中小企業労働問題協議会

**後援** 長野県  
公益財団法人長野県テクノ財団  
平成30年度 中小企業連携組織支援事業



## 基調テーマ：「現場力の維持と強化 ～自動化・省力化・合理化から働き方改革へ～」

### ●カリキュラム

開催月	テーマ	講師	内容	開催地	日時・会場
9月	「日本人气質」からの脱却 ～IoT活用を通じた 生産効率の最大化～	武州工業(株) 代表取締役 林 英夫 様	同社は1951年の創業以来、自動車用の熱交換機パイプと板金部品の製造で成長し、現在ではパイプ加工のコア技術を用いて医療機器、航空宇宙等広く事業を展開している。自動車業界を中心に多くの業種で、海外の件費が安い国に生産をシフトすることでコストを抑え、国際的な価格競争力を維持しようとする企業が多い中において、同社は国内生産においてLCC(Low Cost Country)価格を実現している。その秘訣は社員各自が生産計画を決め、出荷までを担う「一個流し生産方式」と、20年前からの構想を実現したスマートデバイス等を用いた見える化機能を備えた自社独自の生産管理システム「BIMMS」の活用にある。生産現場でIoTを活用するために、本当に必要な情報は何か、何のためにIoTを導入するのか、IoT活用の本質について研修する。 ※本講座は、同社からの視察依頼等があった場合にご対応頂ける企業様のみご参加できます。	東京都 青梅市	9月26日(水) 武州工業(株)・本社
10月	穀物の感動的価値を創造する ～安心・安全から 笑顔と健康を生む～	(株)はくばく 代表取締役社長 長澤 重俊 様	同社は創業以来、穀物と共に歩んできた。どんな時代になっても人間にとって食は本当に大切なものであり、中でも栄養価の高い穀物は特に大切であると考えている。穀物を普及させることで世界中の家族の笑顔と健康に貢献することを目指している。社名の由来は、1953年に発売した「白麦米(はくばくまい)」である。白麦米は「もっと大麦を喜んで食べてもらいたい」という思いから、大麦の中央にある黒条線を除去して食べやすくするという課題に取り組み、「峡南式高速度切断機」を開発し、大麦を一粒ずつ黒条線に沿って半分に割って黒い筋を目立たなくすることを実現した。その後、精麦の他、小麦粉、乾麺、麦茶、雑穀、米へと事業を拡大している。「穀物の感動的価値を創造する」事を社員一丸となって本気で目指している。美味しさ、簡単さ、楽しさ、意外性、豊かさ等その様々な切り口から価値創造を実現する同社の取り組みを研修する。	山梨県 中央市	10月15日(月) (株)はくばく 本社・中央工場
11月	「FA機器+冷凍機+IT」で 独自の品質保証体制を提案	(株)エーアイテック 代表取締役社長 大林 泰彦 様	同社は、1986年に創業し低高温検査装置の他、異形部品挿入機、コーティング機等を手掛けている。創業当初は半導体関連業界向けハンドリング装置など電子部品製造の自動化設備の開発・製造を行っていた。転機は、自動車基板の品質保証のため、低温から高温まで検査できる装置が欲しいというオーダーを受けたこと。自社開発の冷凍機を組み合わせた車載用電子制御機器の低高温検査装置を開発し、現在では自動車関連メーカー各社に導入されており主力製品となっている。同社の強みは、FA機器と冷凍機、両方の開発・製造を得意としていることに加え、社内技術者の全員が3次元CADを使いこなす等、会社全体でIT・IoTの活用に積極的に取り組んでいることにある。「FA機器+冷凍機+IT」で独自の品質保証体制を提案する同社の取り組みについて研修する。	松本市	11月5日(月) (株)エーアイテック・本社
11月	タブレット端末での 作業実績収集と設備稼働監視 ～スマートものづくりの実践～	飯山精器(株) 代表取締役社長 寺坂 唯史 様	同社は油圧機器部品や情報通信機器部品の金属切削加工を行う製造業である。複雑な形のものから削りにくい材質のものまで対応しているが、近年は多品種少量生産や納期短縮のニーズが高まっており、品質の確保、工数削減によるコスト削減が急務となっていた。その対応策として現場担当者一人ひとりにタブレット端末を配布し、作業時間の収集、完成数・不良数の把握、設備稼働状況が監視できるシステムを導入し、在庫数や進捗管理がスムーズに行えるようにした。さらに設備の稼働状況では、設備に取り付けた光センサーと小型パソコンを繋ぎ、設備の異常をリアルタイムで監視することで停止時間を減少させ、稼働率を向上させ、納期遵守率を向上させている。同社のIoTの導入事例について研修する。	中野市	11月 飯山精器(株)・本社
12月 ・ 1月	エッジコンピューティングを 活用した製造現場における IoT実現方法	三菱電機(株) 名古屋製作所 FAソリューション推進事業本部 ご担当者 様	同社は1921年の設立以後、扇風機、テレビ、エレベーター、冷蔵庫、電子計算機などの製造を手掛け、現在では産業、交通、エネルギー、通信、宇宙など幅広い範囲の事業領域を持つ総合電機メーカーである。同社では、2003年からe-F@ctoryという製造業でのIoTにおけるコンセプトを提唱し、FA技術とIT技術を活用することで開発・生産・保守の全般にわたるトータルコストを削減し、お客様の改善活動を継続して支援するとともに、一歩先のものづくりを指向するソリューション提案をしている。 自社工場で取り組んでいる事例をベースに同社製品活用でのIoT実現方法、またエッジコンピューティングを活用したIoTとして内閣府が提唱する「Society5.0」や経済産業省が推進する「Connected Industries」の実現に貢献するエッジコンピューティングの基本ソフトウェアとなる「Edgecross」など生産現場へのIoT導入の方策について研修する。	愛知県 名古屋市	12月・1月 三菱電機(株)・ 名古屋製作所
1月	創業100周年を見据えた 技術承継の実現と プロフェッショナルの育成	(株)三葉製作所 代表取締役社長 堀内 健一 様	ゴム押出成型機の製造を主な事業とする同社は、戦前の創業時より培ってきた技術力・開発力で、国内トップシェアを誇る企業である。事業の特徴は、「完全受注生産」であり、顧客の求める様々なニーズに的確に対応し、国内外のメーカーから厚い信頼を獲得した。また、同社は、他社に先駆けて働き方改革を断行した企業でもある。増収増益を達成する中、あえて売上計画を下げることによって、残業時間を半減させることに成功した。2030年に迎える創業100周年を見据え、基幹システムの再構築、確かな技術継承の実現、働き方改革による労働環境の改善を通じ、将来を担うプロフェッショナルの育成を図る同社の取り組みについて研修する。	上田市	1月16日(水) (株)三葉製作所・上田工場
1月 ・ 2月	フレキシブルロボットで ものづくりを支える ～多品種変量生産を ロボットによる省人化～	三和ロボティクス(株) 代表取締役社長 沢 宏宣 様	同社は、1964年の創業以来、大手メーカーや企業のサプライヤーとして、基幹となる精密加工部品の受託加工で成長を続けてきた。IoTやAI、ロボットなどが産業を変革する「第4次産業革命」が推進される中で、「変化こそ、大いなるチャンス」という考えのもと、近年はロボット開発事業に参入。労働力不足解消や生産の効率化を狙い、独自のロボットを自社工場に導入してきたという背景のもと、NC旋盤に自動で材料を脱着するロボットアームにより、もともと人の手で行われる工程を自動化したロボシステム「NEXSRT(ネクサート) [2017年NAGANOものづくりエクセレンス認定]」を開発し、業界内でも注目を集めている。同社の生産現場へのロボットの導入と生産性向上の取り組みについて研修する。	飯田市	1月・2月 三和ロボティクス(株)・本社
3月 上旬	基調講演会	調整中	今後の経済動向を見据えた製造業の変革・生産現場の方向性などについて研修する	諏訪市	3月上旬 諏訪市内ホテル(予定)

※ 上記研修先様には内諾を頂いておりますがご事情により開催日・研修先様の変更となる場合もございますので、予めご了承下さい。

※ 上記研修先様のご事情により受講者数に定員制を設けさせて頂く場合もございます。その際は各回申し込みの先着順となりますので、予めご了承下さい。

※ 上記研修先様のご事情により、講座によっては競合他社等となりえる受講希望者様の参加をお断りさせて頂く場合もございます。